

JAXA の浜崎部長が資料 4-1(準天頂:愛称)を 4 分程で説明した後、25 分程の質疑応答があった。(愛称に関する質疑は少なく、殆どの時間を「準天頂衛星/GPS の補完・補強」ビジネスと見通しと、其れに向けての準備に関する質疑応答に時間を費やした。浜崎部長は宇宙利用ミッション本部に所属し、各推進部と連携しながら、本部全体の調整を行うのかも知れない「事業推進部」の部長である。従って、此処での質問に対して JAXA の宇宙利用ミッション本部が行っている活動を広くご存じなのかもしれない。しかし、其の本部長は本間理事であり、「宇宙利用総括」の部長を兼務するのは道浦執行役である。お二人どちらかなら兎も角、浜崎部長は少々回答し過ぎではなかったかと思っ

池上委員長:どうぞ、ご質問等御座いましたら。

青江:あの、三つ程一寸状況をお聞きしたい事がありましてですネエ、一つは、アメリカの GPS 近代化信号とスペックを同じゅうする協議を此れから進めるんだと云う話だったと記憶してるんですけども、まあ、其の辺を含めての、アメリカとの間の、まあ所謂、協調状況は非常にこう、上手く行ってんのかどうなのか。それから二番目はネエ、東アジア・オセアニア地域にも、此の衛星を使って、まあ、利用して貰おうじゃないかと。其の働き掛けを強めて行くんだと云う話だったですネエ、2 年程前って云うのはネエ。其の辺は今、どんな進捗にあるのか。それから三番目はネエ、補強業務については、此れはまあ、あの一、国交省の何とか研究所が信号作って、

上げて、それで下ろす、此処までやります。そこで、利用実証は此れからどう云う風にしようかと云う風な事だった様に記憶して居るんですけどネエ、当時ネエ。ですから、其の時に国交省だけじゃなくて、少し民間も巻き込んで、そう云う利用実証も進めて行こうじゃないかと云う心算だっって云うお話だった。其の辺の進捗状況はどんな風に、今、なってるのか、此れ位ですかネ。

JAXA 浜崎:簡単にお答え致します。詳細につきましては、また、此れからですネ、打上げ迄の間で沢山当社からご説明の機会を設けさせて頂きたいと思ひます。先ず最初のご質問の、日米の、GPS 等との協力で御座いますが、先ずあの、GPS が現在使っている信号、例えば L1 の CA 信号、L2・CA 信号ってのは同一のものを先ず準天頂衛星に持って居ります。位置的にジレイ(?)GPS と異なる位置から、特に天頂付近からデータがありますが、其れを GPS と組合わせる事によって、観測、ビル陰や山蔭等の観測の、所謂 GPS では観測が出来なかった分にもダッシュ(?)を提供する。此れが一つ目の機能で御座います。二つ目は、従来の、今後の GPS の、将来で追加される信号につきまして、一部のものにつきまして全く同一のスペックのものを有して居りますので、其処について同じ様な組み合わせをした実験を行ひまして、其の有効性の実証をする事が可能<sup>1</sup>で御座います。此の、追加

<sup>1</sup> 回答の意味が分からない。また、質問に対して直接答えて居ない。連携なり協議なり、GPS との関係が緊密か否かが回答すべき重要な点だろう。

的な機能につきましては、今、各国の衛星がですネ、色々な周波数で色々な方式を試して居りますので、今後どう云う方式が優れて居るかって云うのは、其の実証試験の中で、カイワガッテ(?)行く<sup>2</sup>と思います。で、準天頂衛星の其の位置を担える事になると云う期待をして居ります。それから、アジア・オセアニアの関係で御座いますが、先ず、準天頂衛星を実施する為に必要不可欠な地上局が御座います。私共のプロジェクトと一体となって、その、衛星の位置を、信号を正確に出す為の基準局等が必要で御座いまして、既に外国では5局、オーストラリア、タイ、インド、それからハワイ、グアム、此の5局にですネ、地上の基準局を置きます。これにつきましては全て協定の締結を終了致しております、此方の局を置く事が決定して居ります。国内の4局と併せて合計9局で運用をする予定で御座います。此れ等の機関とは、同様に利用の協定、利用も含んで協定結んでおりまして、各機関も此れに併せて、同様の実験に参加してくれる<sup>3</sup>と云

<sup>2</sup> 「各国の衛星」とは何なのか。グロナスなどのGPS以外のシステムを意味しているのだろうか。つまり、米国の保有するGPSのみならず、世界の測位衛星システムと協調し、どのシステムに対しても補完出来る様なシステム作りに向け、協議を行っていると言う回答なのか。

<sup>3</sup> 第2の質問に対し、是より前は意味を為さない。それとも、準天頂衛星測位システムに不可欠な基準局を提供した国に限って実験に参加出来ると云う意味なのか。そもそも参加させてあげるのか、参加して貰うのか、小職は後者でないと変だと思ふ。

う事になって居ります。それから、此の信号につきましてはですネ、信号のスペックですネ、仕様を広く一般公開して居りますので、例えば、民間の企業と、外国でも可能ですが、其れに対応する地上局、携帯局等を作りたい場合には、其れが使える、作れるようなですネ、基本的な信号の規格等は公開<sup>4</sup>致しております。それから、最後のご質問で、民間での利用の件で御座いますが、衛星につきましては国の、此の...準天頂衛星計画に参加して居ります国土交通省等の国の機関、また、国の研究所に加えまして、民間等での利用の推進が大変重要だと認識は致しております。で、測位利用技術センタの方で、民間の利用実験を取り纏めて頂きまして、其処を通じましてですネ、民間での利用の実験等を共同で実施して行く<sup>5</sup>と云う事になって居ります。また、此の詳細につきましては又、別途機会を頂きまして、詳細ご報告致

<sup>4</sup> 全く質問していない事に回答しているが、本当に此の様な考えで良いのか。日本に対して何も貢献しない国の機関や営利会社が、準天頂衛星の電波を盗んで使う事が出来ると言っているのと同じだと思える。そんな国際戦略と云うものがあるのか。GPSは誰でも利用出来るが、軍事用の緻密な位置測定が出来ない様にし、軍事作戦を行う時には敵対国が利用出来ない様に暗号を掛けると言っている。

<sup>5</sup> 「測位利用技術センタ」なる組織が企画・推進すると云う事であるが、「実験を共同で実施する」と云うのはどう云う事だろうか。費用は誰が負担するのか、共同実験の為に増えるJAXAの負担について条件を決めてあるのか。余りに漠然とした回答である。

したいと思います。

青江:あの、エエト、まあ、最後から行きますと、そう言う民間がジョインした形でと云う、所謂補強ですよネ、補強業務についてのですネ、民間が入った様な形でですネ、実験が進みつつあるのか？ そう言う理解で良い訳ですか？ 民間も、「俺もやってみようじゃないか」と云う。<sup>6</sup>

JAXA 浜崎:非常にあの、多くの、あの、民間企業の方が興味を、関心を示して頂いておりまして、多くの企業に参加頂けるものと云う風に思っています。

青江:アア、そうですか、へえー。其れからネ、二番目のアレで、あの一、例えば豪州で地上基準局。そうすると、あの、豪州一、其の相手機関は、例えば何処だと思えば良いんですか、豪州政府？

JAXA 浜崎:基本的には政府機関で御座います。

青江:政府機関？

JAXA 浜崎:はい。

---

<sup>6</sup> 参加して来る民間には色々な動機がある。ライト兄弟が世界で初めて動力飛行に成功した記事を読んだ人が、航空郵便事業を考えて、直ぐに実行して今のUSメールを大きく成長させた。準天頂衛星の記事を見て「此れは儲かる。是非使いたい。」と思って参加する人は居るのか？ 多くは国が提供するお金が目当てであるし、昔から長く宇宙事業に取り組んでいる企業は「お国の為。」と考えているし、自己資金をなげうってでも利用したいと云う参加者が増えなければ、青江委員の思い描かれている「宇宙の実用化」に向かっているとは言えないだろう。

青江:他のタイだとかインドだとか云うのも？

JAXA 浜崎:基本的には宇宙機関または地域関係のムニャムニャ

青江:ウーン。でー、彼らが、向うの政府部内に於ける機関が自分でお金を用意をして、地上局を作って、それで以て実際エエト、降って来た信号を何とか斯う解析をしたりと云う風な事を、彼らのもうあの、エエト、彼等が全部、先方が全部やる様なイメージですか。

JAXA 浜崎:エエト、一寸イメージが違いましてですネ、今回置いてます基準局が準天頂ミッションの実施に不可欠なもので御座いますので、基本的には、局の基本的な設備は JAXA の方から持ち込んで居ります。但し、あちらに御座います色々なインフラストラクチャですネ、其れは使わせて頂いて、例えば電気代等も負担して頂く様な、両者折半の持ち寄り形式って云う様な形で、相互負担で実施致します。

青江:いや、其れは当にネ、準天頂衛星を運用する為に、9 局在った方が上手い事運用出来るからと、斯う云う話じゃないですか。

JAXA 浜崎:そうです、はい。

青江:僕が言ってんのはそうじゃなくて、

JAXA 浜崎:利用実験の事でしょうか？

青江:そう。あの一、豪州が、...エエト、東アジアの国々にもですネ、準天頂衛星を使って貰おうじゃないかと。まあ、当面は1個だけけれどもですネ、先行きはですネ、まあ、所謂取敢えず2機みたいな処ある訳ですから。そう云う、現に使って貰おうじゃないかと、其処をもっと推し進めようじゃないかと云う話

であった<sup>7</sup>筈なんですヨ。其処の処はどの様に進捗をしますかって云う。

JAXA 浜崎: 其の部分につきまして、今の基本的なものに加えて、トウキョウ(?)の中で、各機関と協力をして行く事になって居ります。で、各機関は、基準局と云うよりは寧ろ地上での、其れを利用するポータブルのクウ(?)タイプって、要するにその、カーナビの部分に、準天頂衛星の信号の利用の機能を付けた様な形、斯う云うものを用意する必要があります。で、一部につきましては JAXA 側から持ち込みます。一部についてはあちらで開発をされると云うものを混ぜて、色々な利用実験やっけて行く事になると考えています。特にあの、色々な用途で、非常に多くの利用局をですネ、整備する事が極めて重要だと思しますので、しかも低コストの、小型のものを開発する事が、非常に大きな課題になる<sup>8</sup>と云う風に考えて居ります。

<sup>7</sup> 何が動機で其の様な外国での利用促進を期待するのだろうか。外交関係の維持向上が動機ならば、外務省が中心的な役割をするだろうし、科学技術の先進性を誇示したいのなら唯ニュースを流せば良いし、国の予算を確保する為にユーザを確保したいと云う動機以外に、此れほど熱心になる動機が見つからない。

<sup>8</sup> 宇宙関連の技術開発プロジェクトで、量販型の超小型低価格の端末機を開発する事は難しいだろう。しかし、自らの資金で其れを開発する様な企業が競争を始めれば、数年で実現する事は携帯電話やカーナビの急速な普及を見れば明らかである。JAXA が心配するのは、衛星を軌道上に確保する事である。

青江: その一、少しくどい様な気がするんですけども、通信衛星の場合も同じなんですけどもネ、例えばそう云う事を協力しようとするのは、JAXA が此方に行ってやる、日本から持って行く、... 向う側に技術開発を担当する機関が向うにおいてネ、其れで以て利用実験やると。あの、斯うなんだけど、もっと良いのは兎に角当面は技術開発を担当する機関が窓口においても良いんだけど、其の直ぐ後ろ側に、そのホントにその一、まあ、例えば豪州で言えば豪州の通信関係を担当する処との間のとか、それから所謂地図管理を担当する、其処と非常に近い形で以て利用実験が為されて居れば、先行きが、其の次の段階が違って来るって言いますかネ。云う風に、其処がそう云う風に、兎角ならない事が多かったんで、中々実際は<sup>9</sup>ですネ、その一所謂研究、例えばインドネシア

<sup>9</sup> 外国政府の中で、宇宙利用の技術開発担当部署は興味を示したが、実用部署は参加しなかった事があったのは事実だろう。其の原因は、計画の初期段階から参画しなかった事にあるのだろうか。技術開発担当部署は日本の技術に接する機会其の物が興味の対象であり、十分な動機を有すると考えられる。一方、利用部署にとっては、日本の予算に頼った衛星が継続的に軌道上に置かれなければ自身の計画が頓挫すると云う脆弱性を有し、また、何かと日本政府が計画に入り込んで来る事を免れないので、計画推進に躊躇があって当然ではないだろうか。また、日本国内の利用協力に於いても、省庁相互の責任範囲、権限についての危惧が協働を妨げている事もあるのではないか。他国は見え易いが自国は見え難い。寧ろ国内問題に傾注すべきではないか。

で言やあラパンで閉じ取ると。みたいな事が良く起こると云うのは、あのエエトまあ、止めようじゃないかって言う事を言って居る訳ですヨ。だからその、今回の其れも、そう云う形で是非あの一、まあ、相手のある話ですけれども、利用実験と云うのをですネ、進めて頂くと良いナァって云う風に思うんですけどネ。

JAXA 浜崎:私共、其の認識は此のプロジェクトのスタート当初から思って居りまして、先ずあの、国内に於きましても JAXA が単独で実験すると云う事ではなくて、国の国土交通省或いは其の研究所含めた、オールジャパンとしての体制を作っています。度、各々の研究機関、或いは政府機関そのものが又外国にですネ、別のネットワークを、相互協力のネットワークを持ってらっしゃいますので、其処も併せてですネ、各国への利用の浸透を図る<sup>10</sup>為に、そう云う様な体制を確り

<sup>10</sup> 宇宙科学に於ける科学者と技術者の協働関係は強固だと認められるが、実用衛星に於ける協働関係には多少弱いものを感じる。NICTとJAXAの関係は長期に亘って強固であるが、通信衛星の商業化にまでは達しなかった。利用機関との協働関係構築に心を砕く前に、衛星利用がどのような筋の物かをもっと的確に分析する必要があるはしないか。井戸には、掘れば水が湧き出す様な強い水脈のものもあれば、呼水さえ差せば容易に汲み上げられるもの、水脈が途絶えがちでしばしば呼水を必要とするもの、深い処に在って強力なポンプでないと汲みあげられないもの(つまり特殊な用途が無ければ汲み上げる価値の無いもの)など様々である。宇宙利用とはどんな井戸だろうか。

と作り上げて行きたいと。何れにしろですネ、まあ、衛星が確りと動かないと中々、あの、打上げて実績を示し始めないと中々現場は動き始めないもんですから、スタートの処は宇宙機関、其方の技術を監督頂いてる機関を中心にした計画を進めて参りますが、順次其れを拡大して、利用シャーカ(?)して行きたいと云う風に考えています。

青江:はい。有難う御座いました。

JAXA 浜崎:個別の需要は又あの一、後ほど、...

池上委員長:ア、また此れは別に、今日は名称のホントは話で御座いまして<sup>11</sup>ですネ。ア、其れから一つだけ。民間利用のネ、窓口は何処がやってるんですか? 国土交通省の方がやってる? NICTの方ですか?

JAXA 浜崎:STSE と云うですネ、測位技術利用技術センタだとか、...

池上委員長:アア、ハア、ハア、あそこが窓口。アア、分かりました。

松尾参事官:衛星測位利用技術

JAXA 浜崎:衛星測位利用

井上:愛称募集について、あの一まあ、民間の理解を深める、或いは関心を高めると云う目的と云う事なんですけど、此の、応募用紙って形で、結構沢山のアレが来てる様な印象を持つんですけども、此れはその、イベント会場みたいな、どのようなイベント会場で、どれ位斯う云うものを撒いた結果、此

<sup>11</sup> 折角本道に引き戻したのに、青江委員の質問に関連を感じられる質問をしたので、再度商業利用の話題が上がってしまった。

れ位の事になってるんですか。

JAXA 浜崎:例えば筑波宇宙センタの一般公開とか、其れから JAXA シンポジウム、それから後タウンミーティングをやって居ります。それから後、各自治体とですネ、WINDS や ETS- を用いました利用実験等行って居りまして、そう云う機会、それから後、職員が講演をする場合、中学校・高校から一般の公演まで、そう云う場合にですネ、必ず其の応募用紙の配布と受付をやって頂いて、やって居ります。あと、JAXA の見学場所、それから後エキスポセンタ等に実効協力頂いております。

井上:何て言うんでしょう、こう、**応募して来た割合<sup>12</sup>**みたいなもの、どれ位なもんなんですか。

JAXA 浜崎:エエト、年代的な?

井上:エエト、全体、どれ位用紙をばら撒いて、で、此処へ... 中々難しいんでしょうけど、

JAXA 浜崎:一寸用紙の枚数と云うのは把握して居りませんけれども、**兎に角 4 千通集まってるのですネエ、エエ、此の何倍の印刷をし、ムニャムニャ、記憶がはっきりしませんけれども<sup>13</sup>**。かなりあの、職員。ただあの、ホイウト(?)と云う事よりも、職員がイベントで行った先で積極的にお声掛けをして、其の場で書いて頂く様な、そう云う形でやって居ります

<sup>12</sup> アンケートの場合には対象者数、有効回答数を示し、集計結果を報告するのが通例なので此の質問だったのだろう。

<sup>13</sup> 質問されたら兎も角何か答えなければならぬと感じる方の方に見受けられる。

ので、実はあの、相当職員の負荷は掛けて居ります。

森尾:1 万件と云うのは、従来の例と比べてどうなんですか? 其れから約 3%強ですネ、其れは今迄の例と比べてどうなんですか。

JAXA 浜崎:此れ迄の集計の例で御座いますと「だいち」愛称募集をした時に 4400 件、「きずな」で 9600 件、で、「かくや」で 11600 件、「いぶき」が最高で 12700 件で御座いますので、11111 件と云うのは近年の例からすると多い方で御座います。それから、集中の度合いと云う事で御座いますが、過去の例で申し上げますと一番集中度が高かったのが「かくや」で御座いまして、11000 の内の 1700 名位の方が「かくや」を提案されてる。それから「いぶき」の時でも 12600 件の中の 630 名が提案されてる。其れに比べますと、今回比較的ばらつきが大きくてですネ、提案者数自身は過去に比較すると低くなっております。と云うのが事実で御座います。

森尾:もう一つ、あの、先程青江先生の質問ですけど、先程ご説明された日本国内 4 か所含めたトータル 9 か所って云うのは、基本的には此の準天頂衛星のポジショニングの為の基準局と理解して良いですネ。

JAXA 浜崎:基本的には、...はい。

森尾:で、あのー、まあ、ついでにと言っちゃアレですけど、衛星からの信号も受けて何か利用する側の機能も備えると。

JAXA 浜崎:あの、衛星の時刻等をですネ、較正する為の機能を持つ電波です。

森尾:で、此の電波を受信する為には専用のものが必要になる、

それとも GPS...

JAXA 浜崎: エエト、幾つかの方法を考えて居りまして、専用の要するにカーナビの様なものを作る方法、それから今一番簡単なの、ボードを用意しましてですネ、其れが他の機器に組み込める様な。其の中で一番有効なのが、其のチップの開発もイチブノキ(?) やって居りまして、其れが上手く行けて、量産が出来れば、従来の、今在る...えー...あの、僅かな変更で組み込める様になって、上手く行けば携帯電話等にも組込は可能な様な事を目指して居りますネ、今ヨシダビジネス(?) 進めております。

池上委員長: 今のに関連しましてネ、此れ、或る意味じゃ分かり難いですヨネエ。

JAXA 浜崎: はい?

池上委員長: 分かり難いにも拘らず、此れだけ応募があったって、どう云う事なんですか。カーナビ屋さんで、...あの、に配ってやったとか、そんな話は特に無い?

JAXA 浜崎: 今のあの、応募で御座いますか?

池上委員長: エエ、応募の数が非常に多いですヨネエ。あのー、例えばあの、「かくや」なんかに比べて分かり難いですよネ、此れは。

JAXA 浜崎: まあ、そうです。

池上委員長: 或いは、分かり易いっちゃア、カーナビの話を持って来れば、此れは分かり易いと。どうしてこんな集まったんですか。

JAXA 浜崎: エエトですネエ、かなりの部分が矢張り...

池上委員長: つまりネエ、どう云う宣伝をされたんですか。

JAXA 浜崎: 先ずですネエ、ホームページ等で 6 千件来て居りますので、此処が主力で御座います。此処につきましては従来も応募してるとこと大体同じような数で御座いまして、此処はもうコンスタントにですネエ、あの、ホームページの来訪者の中から来て頂いていると云う事です。4 千件が多いのは、かなりの部分が私共の職員の努力に対してのお声掛けと云う事です。

池上委員長: て云う事はもう、6 千件、或る意味じゃあもう、毎回何か言ってくれると云う。

JAXA 浜崎: ですからあの、過去 4 千件が 2 千から増えまして、段々増えて来てる...

池上委員長: 増えてるって事ですネ。アア、成程ネ。

JAXA 浜崎: あのー、段々定着して、皆様に知れ渡って来たと云う事と、其れから後まあ、当選者の方の種子島打上げご招待

池上委員長: アア!

JAXA 浜崎: が御座いまして、そしてその、招待された方が新聞報道されたりして、そう云う処があの一、ムキ(?) をしているかナアと...云った様な処...

池上委員長: アア。

野本: あの、此のマークなんですけれども、初めて私見たんですが、此れは割と最近作られたものなんですか?

JAXA 浜崎: そうです、はい、はい。

野本: 何かあの、浜崎さんだから丸じゃないのかナって思ったんですけれども。

JAXA 浜崎:私が決めた訳では御座いません。

野本:ア、そうですか。

JAXA 浜崎:エエトですネ、ロゴマークにつきましてはプロジェクト・レゾン(?)的に考える事になって居りまして、実はあの、愛称が決定しましたので、又其れも上手く取り込んでですネ、幾つかのバージョンを作って行ければと云う風に、具体的に思っています。

野本:あの、中々此のマークは洒落てるナと思ったんですけども、此処に此の QZSS の代りに「みちびき」とか入ったバージョンと云うのを作る訳ですネ。

JAXA 浜崎:そうですネ。あの、どうするか、此れ、今後検討いたしますけども、何等かの格好で、一寸 QZSS だけでは分かり難いので、「みちびき」と云う様な名前を入れたバージョンを考えている処です。

池上委員長:ですがあの、クウェーサイ・ゼニスってのは或る意味では専門語<sup>14</sup>ですヨネ。此処はどっかで一寸説明しといたほうが良いかも知れませんネ。QZ って云うのを。

JAXA 浜崎:と云うのは、何処かでロゴマークの...

池上委員長:つまり、ロゴマークでも良いんですけどネ、QZ、僕ら

<sup>14</sup> 専門語とは言っても物理学、工学の世界では極めて一般的に使われる。Zenith は天頂であり、3 軸で座標を示す時に Z 軸が天頂を指す様に使う事が無言の了解になってさえている。Quasi-はラテン語が其の儘伝えられた言葉で、「似ているもの、...に次ぐもの」と云う意味で、物理・工学のあらゆる分野で使われている。小職はクウォズィと発音していた。

もう、準天頂、準天頂に慣れちゃってるんだけど、あの、QZ って云うのは、世の中ですと専門家の中ではもう直ぐ通ずるんだけど、一般の人は QZ って何か特別な話かナって云う風に思ってますんで、もう一寸説明した方が良いんじゃないかと。

森尾:何か良いイメージじゃないんですよネ。何かグレモノとか、ムニャムニャイメージですネ。

青江:今さっきの話、僕は全然分からなくなっちゃったんですがねえ。その一、此の準天頂チップと云うものは別途出来る訳? 別途作らなきゃいかん訳? て云うのは補完業務がメインなんだから、今の GPS を受け取る受信機は、其の儘此の準天頂衛星からの信号は受けられるんだと。

JAXA 浜崎:受けられます、はい。

青江:別途何か所謂此の「みちびき」

JAXA 浜崎:ですから、ナビゲーションの機能を...

青江:「みちびき」チップと云うのがネ、何か必要な風な事を言てなかったですか?

JAXA 浜崎:エエト、先ずですネ、先ず準天...あの、エエト、信号の強さが十分ありますので、従来のカーナビで受ける事は可能で御座います。ところが GPS に色んな追加機能が御座いますので、其れをフルに使うには、基本的にはチップが必要になります。

青江:と云う、其のプラスアルファの処を...フン、フン、フン、フン。それでネエ、もう一つは、じゃあ其れは言ってみれば全面公開と云う?



JAXA 浜崎:仕様は全て公開します。

青江:ウン。云う事で行く？

JAXA 浜崎:エエト、電波の GPS 衛星から来る衛星の仕様については全て公開すると。

青江:ウン、と云う事は誰でもその、此の準天頂チップは誰でも出来る状態に置きますと？

JAXA 浜崎:誰でもって云うのはアレですが、技術能力のある方でしたら、技術能力のある方でしたら、技術能力のある方でしたら、此の仕様に基づいてハードウェアを作る事は可能で御座います。

青江:と云う事は、言い換えるとですネエ、ガリレオは若干セーブしようとして居るらしいですネエ。そう云うのでまあ、通商代表部から若干クレームが付く、付かんとか云う議論があるそうですけれども、要するにガリレオ乃至北斗の様な対応は日本は取りません<sup>15</sup>と。...斯う云う事ネ？

JAXA 浜崎:其の通りになります。

青江:ウーン。...考え何処ですネ。此処で一回出したら、もうズツとアレですか、あの一、其れを改める事は出来ない？

JAXA 浜崎:あの一、今回は技術試験、

青江:ウン、初号機だから。

JAXA 浜崎:初号機で御座いますので、必ずしも今後の衛星、...

<sup>15</sup> 報告の主題とは異なる質問であるが、極めて重要な戦略に関する質問である。プロジェクトを任された者、其のプロジェクトの理念を指示できる上位者が適切な回答者になるが、浜崎部長が回答して良い課題なのだろうか。

まあ、今後の形がどうなるかは未だ、...

青江:いや、あの、技術論。あの、政策じゃなくて、技術的に、もう一回出したら其れはもう其れですネ、以降のアレを幾ら何かこう、止めようとした処で止まらんものだと思えば良い<sup>16</sup>ですか。

JAXA 浜崎:「止まらん？」と云う意味は、一回公開したデータが回収出来ませんけれども、エエト、仕様の変更は必要に応じて幾らでも出来ます。

青江:ウン、あの、其の程度のアレだと、幾らでもエエト、...所謂端末機メーカーは幾らでも対応出来てですネ、其の程度の仕様の変更なら。一番大本がオープンになったと云ったら、其の程度の仕様の変更じゃあ、幾らでも対応出来ると云う事と違うんですか？

JAXA 浜崎:それなりの時間は掛ると思いますけども、今あの、GPS の将来もので、各国がですネ、独自の周波数と独自の方式で、整理をしていて、未だグローバルスタンダードって、どれが決まると云う事が無い状況<sup>17</sup>で御座いますので、まあ、

<sup>16</sup> 「政策論」ではなく「技術論」として、「一度公開すれば其の後の制御が不能になるのか？」と云う質問は、上手に伝わり難かったのかも知れない。回答の中にある言葉、「仕様の変更」が、「公開しなくても推定し易いのか、変更に従う事を防止する事は難しいのか？」と云う「技術的な難易度」の質問には答えて居ない。

<sup>17</sup> GPS が一般通信と同様にグローバルスタンダードが出来ると考えているのか？ 防衛用途が重要なので、異なると思われる。

何年か経った中で、自然と其れが自然淘汰されて来ると思っています。で、其の間、民間に於かれましてはその、どの衛星の度の信号に対応するチップ化と云うのを、其れなりに工夫されて、色んなパターンのもを形作られて行くじゃないかなと。云う中で自然淘汰が自然にされて行くのではないかなと。

青江: そう云う事でないのかも知れないですよネ<sup>18</sup>。……はい。

池上委員長: ア、あとですネ、此れはまあ、そうなれば良いナアって話なんですけどネ。今あの、Google にしても何にしても、携帯端末の方へドンドン移っててますヨネエ。何かそう云ったところが今回此れは或る意味では実験的な要素がある訳で、上手くその、協力するなり巻き込んで出来ると面白い<sup>19</sup>ですネ。

JAXA 浜崎: エエト、Google さんとですか？

池上委員長: ええ、Google とか Microsoft とか、今もう、携帯の方へズーッと移ってく訳ですよ、ウン。で、何か其の辺、コンテンツを送るって無理にしてもネエ、何か其の辺でこう上手く、我々斯う云う実験やるんだけれど、そう云う点アンタ達の将来やりたい様な事でネ、使えるんだったら使ってくれってな事が出来ると面白い。

<sup>18</sup> 回答に対して疑問は発しているものの、どう違うとお考えなのか推定できない。

<sup>19</sup> 此れは GPS の話ではなく一般通信の話である。航空郵便の話と同様、夫々の事業者の自由意思に任せるのが良い。呼び水としては宇宙のセグメントを暫くの間提供する程度だろう。

JAXA 浜崎: まああの、具体的な、ムニヤムニヤと云うよりも、今仰った様な地図の方とか、ウェブコンテンツを為さってる方のムニヤムニヤ、

池上委員長: ウン、そう、ウン。

JAXA 浜崎: それで、あの、此の衛星ではありませんが、他の衛星等ですネ、例えば「だいち」のデータをそう云う、ブブン(?)の、同じ様な使い方をして頂く様な、…アー……指向をして頂いたりとか、そう云う事は順次進め<sup>20</sup>ております。

池上委員長: Yahoo なんかが一応使ってますネ、「だいち」。その様にこう新しい、フチドリ(?)ってな形で、実験だって事で、色々出来ますよって形で巻き込むと、何か面白い結果が。…何か他に。はい、どうぞ。

青江: APRSAF にですネ、此れの利用を呼び掛けて行くのは、今迄やってましたっけ。

JAXA 浜崎: 今迄やって居ります。今月末に APRSAF 御座いまして、其の中でもあの、展示をする機会を作っています。

池上委員長: 一応やる予定になってると。来週。…他に何か御座いませんでしょうか。ア、其れではどうも有難う御座います。成功する事を祈ります。

<sup>20</sup> 此れは準天頂衛星の話ではないと仰っている。回答すべき範囲や責任や権限についての認識が緩いのではないか。